

## 自分らしく生きられる社会に

### 大口小学校 六年 市野瀬 夢和

私は、人の気持ちを考えるのが好きだ。「もしも自分だったら。」と、自分と重ねて考える。そして、考えた気持ちを言葉や行動に表す。その大切さをみんなに伝えたいと思い、私は今年も人権委員になった。しかも、委員長だ。

人権委員会では、お年寄りや体の不自由な人について考えたり、あいさつ運動や募金活動をしたりする。大口小や地域の方、遠くはなれた世界のみんなが、笑顔でいられるようにと願いながら。

朝、正門であいさつをしていると、みんなの顔も名前も、すぐに覚えてしまう。それは相手も同じようで、校内ですれ違ったときにも手を振ったり、「バイバイ。」と言いつたり、どんどん仲良くなっていく。朝から顔が見えないと、「あれ、今日は休みかな。」と心配にもなる。さらに、道路からの階段を、たくさんの荷物を持って上がる低学年が見えると転びそうで手伝わすにはいられなくなる。

「絵本バッグ持つよ。」

と言うと、ほっとした顔で、

「ありがとう。」

と手渡ししてくれる。私は「これで大丈夫。」と思いつながらほっとする。

あいさつは、登下校中の町にもあふれている。時に、あいさつだけではなく、

「おはよう。学校頑張つてね。」

という励ましの声や、プールバッグを目にし、

「今日は、プールがあるんだね。頑張つてね。」と、やる気の出る言葉をかけられる。そ

れは、ただ単に声を出すのではなく、私を見守り、私への思いやりからの言葉だと感じる。そんな、安心できる大口に住んでいてよかったと、心からそう思う。そうだ。私も学校のあいさつ運動で、うれしくなる一言を付け加えてみよう。相手の目を見て、身に付けているものから話題にし、「おはよう。紫色が好きなんだね。」と伝えよう。「ひなたさん、おはよう。」と、名前を呼んであいさつするのもいいかもしれない。そうすれば、私がそうだったように、きっと笑顔に、元気に、やる気に、そして、仲良くなれるはず。仲良くなれば、助け合つたり、励まし合つたりできる。学校や地域で、多くの人がそうなれるように、私から、勇気をもって実行していきたい。

「人の幸せやゆたかさ」「だれかの幸せのために手助けすること」を意味する「福祉」。私一人の力で、全ての人の手助けをすることはできない。でも、一人の友達と私となら二倍の力、学級全員なら四十倍、全校児童なら四百四十六倍。いや、それ以上の力になるかもしれない。みんなであいさつを交わし、心をつなぎ、だれかに支えられながら、自分もだれかを支える、そんな大口小に、そんな大口の町にしていきたい。そしていつか、全ての人がだれかに心を開き、自分らしく生きられる社会、世界になることを信じて。